

新製品・市場動向②

紙と鉛筆の数学の世界から生み出され、二二年間研究し続けた技術「Spinor (Shrinkage processing based on innovative and original technologies)」を武器に、二〇〇〇年四月に誕生した半導体ベンチャー、マセマテック(株)(東京都中央区日本橋一―一八―一四、☎〇三―三三四―〇八〇五)。R



ベースになっている点は異色だ。渡社長は大手IDM企業で五〇歳まで音声認識技術研究開発に携わり、同部隊を率いてきた。一人から同技術を開発し、最終的には総勢七〇人の部隊へと発展させた実績もある。マセマテック設立の経緯を、渡社長は次のように語る。

「大手IDM企業に勤めながら、二年前、ある技術を思いついた。初めは数年研究すればできると思っている、ベシッ

クな数学的なこの技術を会社小を達成できるのだ。それ社休の休日などを利用して研究し、回路が縮小するの究していた。しかしやればみならず、高速化、低消費電力化、低コスト化が実現する。その間に、いつかこの技術で会社を起業し、新たなビジネス領域を構築したい、と思うようになっていた。五〇歳という節目の年齢を迎え、タイミング的に今しかないと思いつき、マセマテックを起業するに至った」。

「Spinor」技術。足掛け二二年の基礎研究を経たこの技術は、RTL設計

「Spinor」技術には二二年間携わっているが、まだまだ進化の余地がある。そのためにも人材を増やしていき予定だ。中長期的な目標は、Spinorの完全自動化。現状では一〇〇%人材に頼っているため、お客様には開発期間面で若干迷惑をかけることがある。完全自動化が実現すれば、RTLの段階でSpinor展開

半導体ベンチャー2007

渡 雅男 氏
マセマテック(株) 代表取締役社長

「Spinor」技術がコア

TL設計において、NANDゲート数換算で回路規模を縮小するという独特の縮小設計技術で、システムLSIの回路縮小に貢献している。

同社を率いる代表取締役社長の渡雅男氏は、たった一人から同社を起業した。しかも趣味で長年続けてきた紙と鉛筆の数学の世界が

「Spinor」技術。足掛け二二年の基礎研究を経たこの技術は、RTL設計

「アルゴリズムとSpinorは同じではないかとよく質問されるが、この点については決定的に違う。アルゴリズムでは画像処理などの限定した分野のみで計算量を減らして回路縮小を行うが、Spinorは分野を限定することなくすべてを縮小できる。アルゴリズムで一度縮小したものをさらに縮小することも可能になり、アルゴリズムとのシナジーも生まれる。ただし、Spinorが有効なのは、演算、ロジック、論理回路を利用する回路の場合となる」(渡社長)。

縮小設計でシステムLSIに貢献

「Spinor」技術には二二年間携わっているが、まだまだ進化の余地がある。そのためにも人材を増やしていき予定だ。中長期的な目標は、Spinorの完全自動化。現状では一〇〇%人材に頼っているため、お客様には開発期間面で若干迷惑をかけることがある。完全自動化が実現すれば、RTLの段階でSpinor展開

(高澤里美記者)